

美味しい氷見米 は健苗育成から

育苗作業は田植の日にあわせて計画し老化苗を防止【コシヒカリの田植は“5月15日”を中心に】

育苗計画(例)

	田植予定日	比重選・種子消毒	浸種	催芽	播種	ハウス搬出	育苗日数
てんたかく	5月5日	4月1日	4月2日	4月12日	4月14日	4月17日	播種から 21日
中山間地域コシヒカリ	5月10日	4月7日	4月8日	4月18日	4月20日	4月23日	播種から 20日
コシヒカリ	5月15日	4月13日	4月14日	4月24日	4月26日	4月29日	播種から 19日
	5月20日	4月22日	4月23日	4月30日	5月2日	5月5日	播種から 18日

10a当り種籾等の準備(70株植)

種子量	1箱当り播種量		使用苗箱数
	乾籾	芽出し籾	
2.7kg	120g	150g	20箱

※コシヒカリの5月15日田植に伴う育苗の注意点

- 育苗期間の気温が高いため育苗日数は(播種から)19日とする。
- 搬出時はかん水して覆土を落ち着かせ、水不足により苗がヤケないように注意する。
- 緑化期であっても高温の場合は、土の乾きに応じてかん水・換気を行う。換気は風下側のサイドビニールを開く。
- 第1葉鞘長3.0cmを確保したら夜間も換気し軟弱徒長を防ぐ。

●育苗の手順 ※「ひみ穂波」を栽培される方は、JA氷見市で温湯消毒した種子を使用してください。

比重選

未熟籾を取り除く
比重選後は十分水洗いをする

種籾	比重	水10リットル当り硫安(kg)
うるち	1.13	2.5
もち	1.08	1.6

浮いた種籾はすてる。
硫安の入った水

沈んだ重い種籾だけを利用する。

種子消毒

●浸漬法(200倍液24時間浸漬)

10℃以上の液温を保つ
同一消毒液は2回まで

薬液量は種籾量の2倍準備する

- ①テクリードCフロアブル200倍液に24時間
- ②消毒中に1~2回網袋を動かす
- ③消毒が終了したら、水切り(風乾)する

浸種

①水温は10~15℃を保ち、積算温度で100℃を確保。(特に初期の温度を確保する。)
②種籾が十分に浸るよう水量を確保(籾:水=1:2)
③2日に1回は水を交換する
④途中で袋の上下を入れ替える

催芽

①細菌病予防のため、催芽は育苗器で行う
②ハト胸程度から2mm程度に揃える
③育苗器では30℃、12~18時間程度で芽長を確認する。

床土入れ

床土は深さ20mm入れる

	1箱当り	10a当り
床土	3~4kg	加工床土で約5袋(20kg)用意
覆土	1kg	

かん水

・カビ対策を兼ねてナエファインフロアブル又はダコレート水和剤をかん注する

播種

(120g播き)

- ①乾籾で120g/箱を均一に播種(厚播きしないこと。)
- ②ルーチンブライト粒剤の播種時処理は覆土前に50g/箱を施用

覆土

種籾が見えない程度に均一に覆土をする

3~5mm 覆土
5~7mm 覆土
20mm

- ①覆土が多いと緑化後のかん水が流れ落ち、しみ込みにくい
- ②覆土が少ないと、ころび苗になりやすい
- ③覆土後のかん水はしない

出芽(育苗器)

①30℃で約60時間(設定温度に注意)
②芽長は約1cm程度

搬出

①搬出は午前中に終える
②搬出時は必ずかん水し覆土を落ち着かせ、水不足による葉ヤケを防ぐ
③寒冷紗等で被覆する

育苗ハウス外の排水対策はしっかりと

緑化

ハウスの温度管理

温度	緑化期 搬出から2~3日		硬化期 緑化後~
	昼	夜	
			25℃以下
			10℃以上

- ①30℃を超える高温時には風下側のサイドビニールを開き換気する
- ②水不足による葉ヤケに気をつける
- ③「てんたかく」は第1葉鞘が伸びにくいので、緑化日数を長めにする
- ④緑化後はすみやかに寒冷紗等はずす

硬化

- ①換気を十分に行い、高温にならないようにする
- ②かん水は、ハウス内温度の高くならない早朝に行う
- ③第1葉鞘長(3.0cm)を確保したら霜や強風の心配がない限り、夜間も換気する

120g/箱播きの目標とする苗の姿

葉数 2.5枚程度

第2葉 第3葉

草丈 12~13cm

第1葉 第1葉鞘長 3.0~3.5cm

鞘葉

乾物重 14~16mg

初期生育の確保は田植作業から！浅植え

～田植機調整の

・適正な植付け本数を目指しましょう！！

5つのポイント～

① 栽植密度の確保 ～栽植株数の設定～

穂数不足を解消するため、コシヒカリの植植株数は70株/坪としましょう！

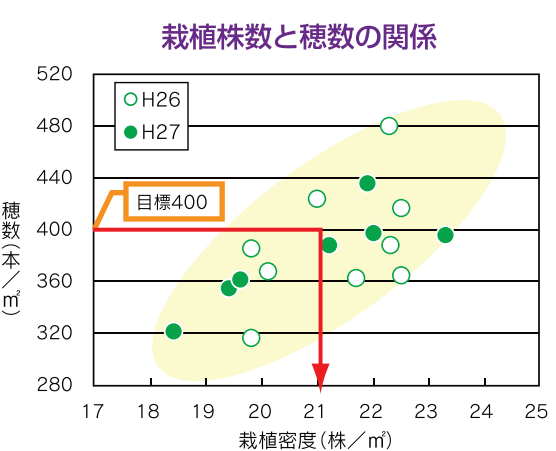


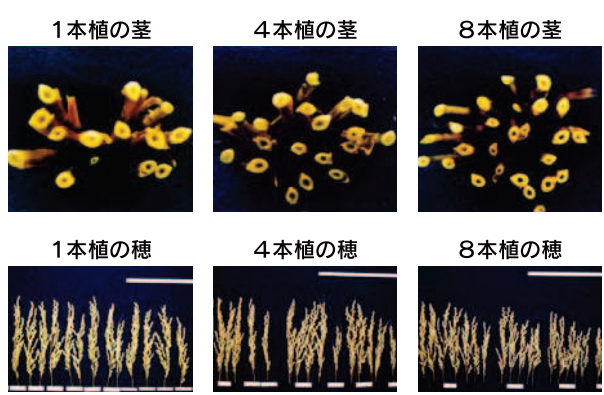
図. コシヒカリの栽植密度と穂数 (H26/27氷見)

メモ
・70株植えは㎡当り21.2株 株間は約16cm!

③ 適正な植付け本数で茎の充実を！ ～苗取りレバーの調節レベルは“少なめ”に～

・播取り本数は3～4本程度に調整しましょう！
・10a当りの使用箱数は20枚を目安としましょう！

植付け本数と茎質の良否について

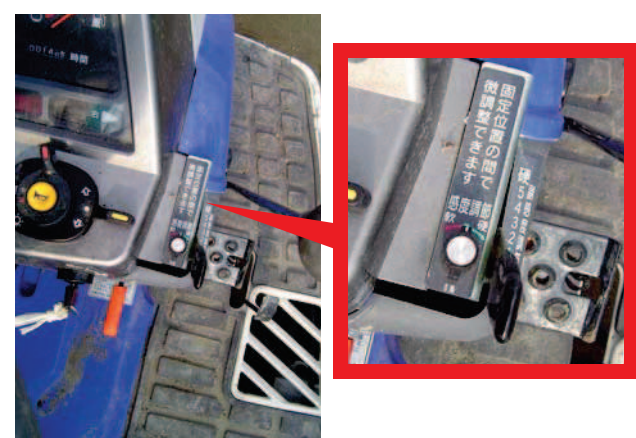


メモ
・70株植えで、株当り4本の適正植えにすると、㎡当り85本植えることになります。
・70株で、植付け本数を適正にすることが、茎質の向上の秘訣です！



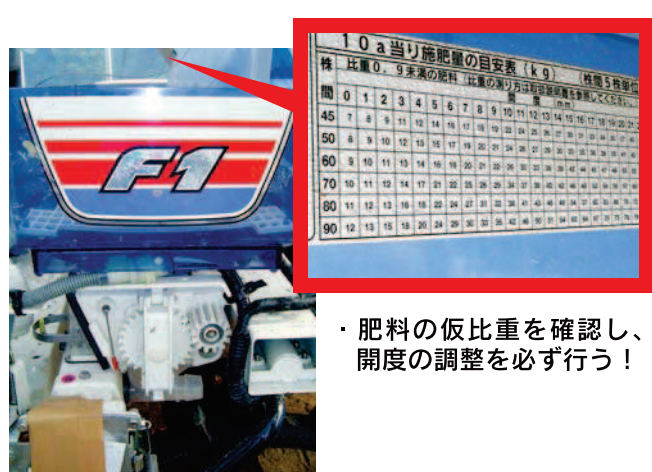
④ ほ場の固さに応じた調節で浮苗防止！ ～土に応じた感度調節～

・代かきから田植えまで日数は、土の固さが適正になるよう計画しましょう！
・ほ場の土の固さに応じて田植機を調節しましょう！



⑤ 地力に応じた基肥で適正生育量を！ ～施肥量の設定～

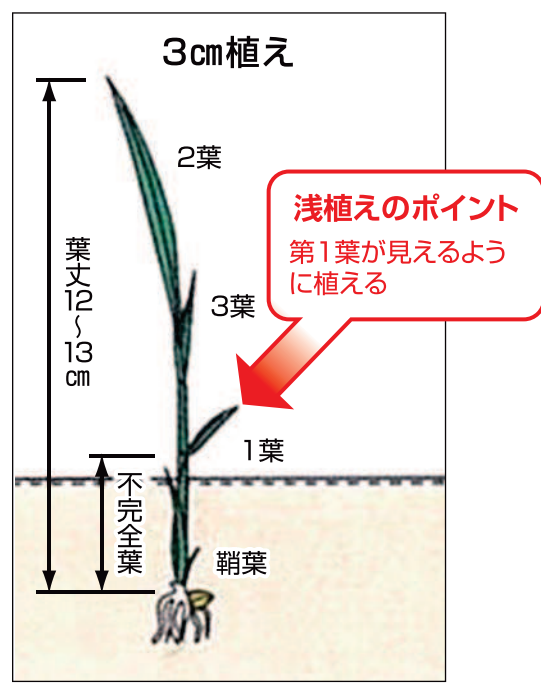
・田植開始前に、稲作こよみの施肥設計を確認し、施肥部の調整を行いましょう！



・肥料の仮比重を確認し、開度の調整を必ず行う！

② 浅植えで初期分けつ確保！ ～植付け深さの調節～

・植付け深さは3cmの浅植えとしましょう！
・粘質土地帯では、代かき後、土が落ち着いてから田植をしましょう！



植付け深さ	田植3週間後	
	草丈	茎数(本/株)
3 cm	32cm	16.3本
5 cm	36cm	11.6本

深植えは茎数が少ない

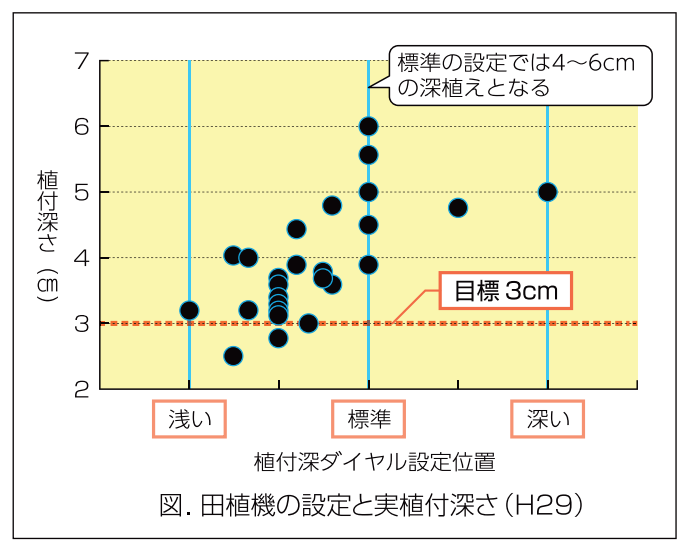


図. 田植機の設定と実植付け深さ (H29)

植付け深さのレバーを「標準」と「浅い」の間を目安に設定し、3cmの植付け深さになるように調整しましょう。

